

(様式3)

## 自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「仲良く笑顔で歩こうよ」の理念の基、地域との関係を大切に、互いに思いやり、ゆずり合い、助けあって共に仲良く笑顔でおだやかに日々過ごしていただいている。</p>	<p>グループホームが一つの家族として地域の方々に今まで以上に愛され、又、頼りにされるよう交流を深め、地域の一員として仲良く笑顔で歩んでいけるように努めている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念の「仲良く笑顔で歩こうよ」を自立支援の基として、利用者様のプライバシーを尊重し、思いやり、思いを受容し、共に仲良く笑顔で過ごせる様に取り組んでいる。</p>	<p>共に仲良く笑顔で過ごせる様、利用者様への理解を深め、穏やかに「いい一日」を過ごしていただける様に努めている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>理念の掲示や重要事項説明書への記載により理念の浸透に努めている。又、日頃から理念の意図することを実践している。</p>	<p>家族様への便りや訪問の機会を利用して理念の浸透に努めている。又、職員全員が理念を実践し利用者・家族・地域と接している。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>地域の老人会の方々が畑の草引きやまほろばサロンに来られたりとふれあう機会があり、お餅等の差し入れもあり、交流を深められつつある。</p>	<p>外構整備により多くの方が集える場が確保できたので、交流の機会を増していきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の老人会や保育所・小学校など地域の行事に参加したり、又当施設での行事に地域の方々・ボランティアの方々に参加していただき交流を深めている。</p>	<p>行事を通して地域の方々と交流を深めている。又、ボランティアの協力を得て外食やドライブを楽しんでいる。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>まほろばサロン・健康体操教室を通して地域高齢者の健康増進と介護予防について情報提供している。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>職員全員が評価された良い点を喜び合い、日々支援することへの励みになった。又、改善点についても後の支援に活かす努力をしている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>今後も運営推進会議での委員や家族様の意見をサービス向上に活かしていく。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>町担当者と良好な関係を深め、地域高齢者の支援とサービス向上に努めている。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>いつでも必要な人には活用できるように、後見人制度について周知している。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>職員研修で虐待防止について共通認識を深めている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>より一層懇切丁寧に説明し、理解・納得していただける様にしている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>利用者様の希望や要望を言い易い雰囲気づくりと、気づきを大切にされた支援をこれからも行っていく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		<p>家族様訪問時に、時間があれば個人記録を読んで暮らしぶりを知っていただき、意見や要望を聞いている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>何でも話していただける雰囲気づくりをしているが、より家族様の意見聴取に努め運営に反映する。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>何でも話し合える機会を多く作る。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>今後も利用者様や家族様の要望に応えられるように努める。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限にしているが、異動の場合は、前もって少しずつ時間を増やして顔馴染みになる時間を持ち利用者様も職員も徐々に慣れる様に配慮している。		顔馴染みの職員で安定した生活支援ができるように努めている。
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の報告書を回覧し、研修で学んだことを共有できるようにしている。ケア会議で認知症についての共通認識を深め、職員一人ひとりのレベルアップに努めている。内部研修でも講師を招きケアプランについての研修を行った。		積極的に外部研修の受講を促し、サービス提供に努めたい。内部研修についても計画を実行していく。今年度も講師を招いての内部研修を行う予定。
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人として他法人との交流や研修等はあるがグループホームとしての交流はない。		グループホームとしての会があるのであれば参加する。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	特に工夫や環境づくりはしていない。一緒にお茶を飲んで利用者様のことを聞いて支援の大変さを共感することに努め共に解決の方法を話し合う。		食事会・茶話会等の機会を作り職員の話に耳を傾ける。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月目標を決めて全員で目標達成に向けて努力し自己評価をしている。		職員が誇りの持てる運営に努める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族様やケママネからの情報収集はもちろんのこと、併設のサービスを利用の方には何気なく話しかけたりしながら、本人の思いや状態の把握に努めている。</p>	<p>相談があった段階でケアマネ・看護師が面接し、本人自身から思いを聴き、不安に思っていることを受けとめる努力をしている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族が抱えている現在の悩みや不安等を、家族の立場になって話を聴き受けとめる努力をしている。</p>	<p>相談時から家族の不安や思いに耳を傾け、グループホームでの支援について話したり、質問にも誠意を持って答え信頼関係を築いている。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた折には本人の状態把握に努め、他のサービスの選択肢も紹介し共に考える姿勢で対応している。</p>	<p>利用者様や家族の思いを傾聴し、共に考え納得して利用してもらえるよう努める。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>認知症対応型デイを利用していた方の入所が多く、場所・風景にある程度馴染みがあり、職員も顔見知りであるが環境の変化に利用者様が不安にならないように家族と協力しながら支援している。初めてサービスを利用される方についてもグループホームの雰囲気を家族と共に感じていただく場を作っている。</p>	<p>入所前に見学やレクの日をつくり、他の利用者様と顔見知りになる機会を設けている。今後、利用者様と家族様が納得して入所していただくために十分な説明をしていく努力をする。</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者様が昔に経験や体験してきた事を聞いたり、実際にしていただいたりして昔の思い出をなつかしみ喜怒哀楽を共感し合っている。</p>	<p>利用者様が得意とする技術を活かし、針仕事をしたり、作物の作り方を教えてもらったりしながら、利用者様と職員が共に敬い支えあう生活を大切にしている。一人ひとり個々の可能性を見出し継続してできる事を考えていく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族様の思いを受け止めながら、利用者様の日々の生活を機会あるごとに口頭や便りで伝え、家族としてあらためて利用者様のありのままを受け入れ共に支えていただく努力をしている。		家族会への参加をお願いし、利用者様や職員共々一同に会し交流を深める努力をしている。
29 利用者や家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者や家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族様・ケアマネ等からの情報を職員全員が共有しより良い関係が作れるよう、訪問時や行事参加等の機会を大切にしている。		入所契約時に家族の訪問を約束し、受診依頼や家族会の参加、運営推進会議への出席をお願いし利用者様の今後の不満や不安につながらないように努めていく。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設施設として特養やデイがあり、職員やボランティア、地域の方々も顔馴染みが多く利用者様への訪問や声かけもあり、職員も機会をとらえいると配慮している。		一部の利用者様にとどまらず、すべての利用者様が自由に自宅に帰り昔の川や野を懐かしむことができるよう支援していく。
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日頃の交流を通して、利用者様同士が支え合う場面も多く見受けられる。職員も見守りながら、交流が深められる様に気配りをしている。他の利用者様の行動等を受け入れられない利用者様に対しては職員の配慮と気配りで関係修復に努めている。		職員同士の情報交換に努め、必要であれば席替えをしたり、個々の思いを納得するまで傾聴し対応している。
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も家族様の訪問があり、談笑しながら良い関係が築けている。併設の特養への入所が多く訪問時や行事の機会に利用者様や家族様の方から声をかけていただいている。		他施設への入院後も見舞や便りを出したり、行事に案内する等して関係を大切にしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>常日頃から利用者様との会話を大切にし利用者様の希望や意向の確認に努めている。又、意思確認できない利用者様は日頃の行動・性格・くせを職員で話しながら、その人にとって快適な生活ができるよう職員全員で話し合う。</p>	<p>畑作物の収穫や花の世話等、積極的に取り組んでいただける活気のある生活の提供に努めている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族様・ケアマネからその人の生活歴やライフワークの把握に努め、入居してもその人らしく暮らすことができるようにしている。</p>	<p>利用者様と日々接する中で機会あるごと、生活歴・生活環境を自らの言葉で語っていただく努力をし、又家族からもプライバシーに配慮しながら利用者様についての情報収集をし、利用者様の生活歴の把握に努めている。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>記録・申し送りにより、一人ひとりの一日の過ごし方や健康状態を全職員が把握している。</p>	<p>職員全員が利用者様を支援する中で、「有する力」を大切に一人ひとりの日々を把握し、その人らしい生活支援に努めている。</p>
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者様自身の希望や意向を聴いているが、意思確認できない人については職員全員が栄養士等を交え、その人にとって良い生活ができるようにしている。家族様にもケアカンファレンスへの出席を促している。</p>	<p>利用者様や家族様を交えて、その人らしく暮らせるように全職員で介護計画の作成にあたっている。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者様の状態変化に気づいた折には、職員全員で話し合い家族様の意見を聞きながら、その人の現状に即した支援に努めている。</p>	<p>利用者様の心身の状態を把握し、変化に気づいた時は家族様と利用者様を交え緊急の見直しを行っている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録でその日の状態・様子を確認できるようにし、申し送り等で情報を共有し、その人にあった支援に努めている。		介護計画にそった支援に努め情報を共有し、理解を深めていくためにさらに正確な記録に徹していく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急を要する受診への対応や家族様の都合・要望に応じられる様にしている。又、併設施設の職員と連携し利用者様の支援に努めている。		雨の日等、特養のホールに出向き旧知の利用者様と談笑したり、認知症型デイの利用者様と一緒にゲームを楽しむこともある。
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者様を支援する上で、必要とされる場合はボランティア・警察・民生委員にも協力を得られるようにしている。又、救急車の要請や消防訓練等、消防署とも連携し、生活支援している。		月3回ボランティアの協力を得て外出や昼食作りをしたり、ドッグセラピーの訪問をうけ癒しの時間を得ている。
41	他のサービスの活用支援  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設の認知症対応型デイでレクリエーションや音楽療法に参加したり、希望に応じてデイの機能訓練指導員の指導を受けたりしている。		希望があれば外の施設と交流を持ち、より豊かな生活ができるように働きかけたい。
42	地域包括支援センターとの協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	介護予防の利用者はおられないが、いろいろな情報交換はある。		今後必要な場合に協働できるように地域包括支援センターへの情報提供と関係構築に努める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が体調不良の場合は、電話やファックスで状態・症状を医師に伝え、指示又は往診を受けることが出来る。家族様や利用者様の希望で医師を選ぶことも可能である。		かかりつけ医との連携を密に取りながら、他の病院の受診が必要な場合は、利用者様や家族様の希望に添うよう看護師が調整を行い、納得のいく適切な治療が受けられるよう支援している。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医受診の際は、グループホームでの生活状態や身体状態を看護師が直接伝えたり、書面で伝えたりして支援している。		認知症の利用者様のありのままを伝え、治療にみあった病院を紹介し、安心して受診ができるよう支援している。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	地域の看護職との交流はあまり無いが、併設施設の看護職員との情報交換や相談は日常的にしている。		併設施設の看護師にも相談したり意見を聞いたりしながら利用者様の健康管理に努めている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院があり、入院した時はグループホームの看護師や職員が状態把握に行ったり、病院からの情報提供や退院時の相談がある等連携している。		利用者様が入院しても安心した生活ができるよう家族様と連携し支援している。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化しても本人の意思や家族の意向を大切に、医師や家族と話し合い、利用者様が安心した生活ができるよう支援している。		利用者様・家族様の意見を尊重しつつ安心した生活が可能となる様に介護・看護が連携し、体調管理に努め、利用者様が安らかな日々を送れるように支援している。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者様・家族様の意見や意思を尊重しつつ、重度化における種々の問題が生じた時には、医師の指示のもとたずさわる職員全員が共通の認識を持って対応している。		カンファレンスを多く持ち、その人らしい生活を支援するために良く話し合い、意見交換をしながら、同じ思いで利用者様の生活を支えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止  利用者が自宅やグループホームから別の 居所へ移り住む際、家族及び本人に関わる ケア関係者間で十分な話し合いや情報交換 を行い、住み替えによるダメージを防ぐこ とに努めている	利用者様が安心して生活できるよう、係わる職員 全員が利用者様の立場に立って家族様と共に良い 方法を考え対応している。		住み替え後の生活に対する不安感を取り除き、安 心した生活ができる様家族に情報を提供し、協力 を得ている。
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	利用者様の情報を職員全員が共有しその人らしい 生活支援を心がけている。又、個人情報保護法に 基づいた取扱いをし、管理している。		運営方針に基づき、人権を尊重しプライバシーの 保護に努めている。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  利用者が思いや希望を表せるように働き かけたり、わかる力に合わせた説明を行 い、自分で決めたり納得しながら暮らせる ように支援をしている	わかりやすい言葉でゆっくり、はっきりと説明す る等、利用者様が自分の思いを表出しやすい雰 囲気づくりに努めている。		利用者様の思いを受容、傾聴し、希望や自己決定 を尊重し、納得して生活していただける様に支援 している。
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	利用者様一人ひとりの思いを大切に、その人らし い生活支援ができる様に日頃から利用者様本位の サービスを職員全員が心がけている。		一人ひとりの思いを受けとめ、希望や要望の実現 に努めている。(カラオケ、食事、ドライブ、外 食、買物等)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	理・美容院の出張サービスでカット・顔そり等の サービスが利用できている。毛染め・パーマも本 人の希望の理・美容院に依頼できる。		日々の暮らしや季節行事等、利用者様の装いや身 だしなみを本人の希望と納得を得ながら支援して いる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食や昼食作り等の日を作り、利用者様が何を食いたいかが聞き取り、買物から食事の準備まで、利用者様と職員が共同して行っている。		グループホームの畑で利用者様が収穫した作物を利用者様に調理してもらい、全員でおいしくいただける喜びを味わって、食事をより楽しいものに行っている。
55 利用者の嗜好の支援  利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	糖尿病を患っている利用者様の食事やおやつ等、カロリー制限のある中で、出来るだけ満足度の高いものを提供している。		買物の折、利用者が食べたい物・飲みたい物を買って、楽しめる支援をしている。
56 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを職員は把握しており、プライバシーに配慮しつつその人にあった排泄支援を行っている。		声かけや誘導、何気ない見守りで、気持ちよく排泄できるように支援している。安易に紙パンツを使用せずに一人ひとりの排泄パターンや現存機能を把握するよう努めている。
57 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日に入浴しているが、それ以外に希望があれば随時入浴していただいている。		利用者様の希望に合わせて(時間・回数)入浴していただいている。長湯を好む人等湯量や温度の好みに合わせて気持ちよく入浴できるように思いを受け入れている。入浴できない利用者様には足浴・清拭を施行している。
58 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	落ち着いたなさや緊張・疲労の程度に応じて、一服したり、心身を休める場面を個別に取り入れている。		体調に変化があったり本人が安楽を希望したときには臥床してもらっている。夜間はテレビを観たり読書をしたりして自由に過ごしていただいている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの趣味(裁縫・草引き・そうじ等)を把握し、楽しく過ごせるように支援をしている。		昼食メニューの食材料選びや野菜の苗選び等、利用者様に意欲を持っていただき、その時々を楽しんでいただいている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の軽度の利用者様には、千円～二千元程度のお金を所持して頂き、自分のお金で買物をする喜びを味わって頂いている。		お金の管理ができる方は所持して頂き、自己管理が難しい方は事務室で預り、必要に応じ職員と一緒に買物に出かけ、自ら選んで買物できるよう支援している。
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭に畑を作っており、いつでも外に出て気分転換できるように畑の前に椅子を置き、お茶を飲んだり、歌を歌ったりしている。天気の良い日は近所の荒神さんまで散歩したりしている。		帰宅願望の強い利用者様が不穏状態となった時も、行動を止めてしまう声かけではなく、利用者様に寄り添い、希望に添った援助をしている。
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じた風景を楽しんでいただけるような計画を立てている。		カラオケボックスで食事をしながら、歌を歌ったり聴いたりし、楽しんでいただくことも実施している。
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話がかけられるよう支援している。携帯電話を持ち自由に使用している方もいる。又、便箋・封筒・切手を購入し手渡している。		季節ごとに、又暑中見舞や年賀状等、親しい方への便りの支援を、利用者様の気持ちを大切に行っている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族やデイの利用者様等、馴染みの方たちがいつでも気軽に訪問し、居室でお茶や食事をゆっくりと楽しんでいただけるよう支援している。		玄関前に花や案内板を置き、気軽に訪問できるような雰囲気作りに努めている。来訪者にはゆっくり過して頂けるようお茶や茶菓子を提供し常に笑顔で迎え入れている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の理念に基づき、身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいる。		日中は玄関の錠を開け自由に出入りできるようにしている。外出したい方には職員がさりげなくお供している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	面会者が来られた後や夕方等利用者様が不穏状態となることが多いが、鍵をかけずに一人ひとりの思いを大切に見守りをしている。		日中は鍵をかけず、できるだけ一人ひとりの利用者様の思いに添って付き添うことにしている。
67 利用者の安全確認  利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者様の所在、様子を把握し危険の回避に努めている。居室で1人の時間を楽しんでおられる時は、プライバシーに配慮し声かけや訪室を行っている。		自由に外出してもらい、車両等に気をつけ側につき見守っている。食事時の見守りを十分行い、異変時には早急に対応できる様さりげなく目配りをしている。夜間は2時間ごとに巡回を行っている。
68 注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	トイレ・台所・風呂の洗剤及び包丁は各保管場所に収納し一部は鍵をかけ保管している。利用者様個人所有の義歯洗浄剤・はさみ等は自分で管理できる方にはさせていただいているが重度の認知症の方の為に目につく所に置かない様お願いしている。		うるおいのある生活ができる様、私物については自主的に管理していただき、包丁・裁縫箱等の共同で使用するものについては職員がいる所で使用していただいている。
69 事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員全員が日々気づきを大切にし、情報を共有しながら事故防止に取り組んでいる。		避難訓練には率先して参加し、玄関の鍵の保管場所を定め誰もが開けられるようにしている。常時マニュアルを確認し慌てることのないよう備えている。
70 急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は応急手当や初期対応についての知識を持っており、急変や事故発生の際は併設施設職員と連携できる。又、緊急連絡網等もある。		消防署で定期的に心肺蘇生法の手順を研修している。介護技術の向上の為に、各自自覚を持って勉強し研修にも率先して取り組んでいる。
71 災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は併設施設と合同で年3回実施しており、夜間想定訓練には消防署の立会いをお願いしているが、災害時の対策について特に地域の方々へ協力の依頼等はしていない。		災害時の危機感は常に持っており、夜間は職員1人であるために利用者様の誘導と安全確保を図り落ち着いて救援を待つよう心がけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日頃から家族様への報告をし、現状を伝えることにしており、その人らしい生活をしていただけるように全職員で話し合っている。		利用者様一人ひとりの思いを理解し、可能な限りその人らしい生活ができる様に努力している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルサインのチェックと、一般状態の観察に努め、小さな変化も見逃さないよう申し送りノートを活用し、職員間で情報を共有している。		通常とは違う様子の変化を見逃さず、介護と看護が情報を共有し対応している。利用者様にとってよりよい方法を検討し対応している。
74	服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が投薬管理を行っている。職員室の整理棚に一人ひとりの薬説明書のファイルを置き、いつでも確認できるようにしている。服薬後の症状の変化について情報交換を行っている。		利用者様の薬の効能や量については各自把握し、不確かな場合は個別ファイルで確認している。薬は服用を確認している。
75	便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	高齢者は便秘になる傾向にあるため、水分補給や適度な運動(散歩・ボール投げ)をレクに取り入れている。		チェック表により排便状態を確認し散歩や運動、水分摂取に努め、自然排便を促し確認している。常日頃から野菜を多く摂っているが、排便が長く見られない時は看護師の指示のもと緩下剤を用いている。
76	口腔内の清潔保持  口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、イソジンガーグルで含嗽し義歯洗浄を行っている。		口腔清拭により食欲の改善にもつながるため、歯磨き・入れ歯の手入れ・含嗽等の支援をし、同時に出血や炎症等の有無のチェックをしている。
77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックを行い、食事量の少ない方にはおやつで補食したり、御家族に好みの食べ物を持ってきていただくよう依頼している。夜間の排尿後等、必要に応じて水分補給を行っている。		管理栄養士の指導のもと栄養のバランスは取れているが、好き嫌いの激しい方には食事サービス委員会で検討し代替食品をお願いしている。食事摂取表をつけているが、ほぼ全量摂取の状況である。水分補給についてはラクーナや湯茶を随時提供している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策委員会において、感染症予防の知識の確認を行うとともに具体的な予防対策を検討している。又、感染予防マニュアルについてもいつでも職員が確認し正しい予防対策ができるようにしている。手洗い・含嗽を励行している。		散歩や買物など外出から帰ってきた時を含め、日常的に手洗・含嗽を励行し、必要であればマスクの着用を促している。訪問者にも同様にお願いしている。
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎回食器乾燥機を使用し、定期的に消毒液を使用している。		食材が賞味期間内であることを確認し、常に新鮮で安全な物を提供する様努めている。冷蔵庫や水周り等の定期的な消毒を行っている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	畑の前の風通しの良い場所に、テーブル・イスを置き、いつでも外に出て気分転換できるように努めている。玄関には親しみやすい表札をかけている。		植木や花を置き景観を良くし、清潔で明るい雰囲気作りに努めている。危険な物は片付け、椅子やテーブルを置き誰でも休憩できるようにし、玄関は施錠せず常に開放している。
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、手作りの貼り絵を皆で仕上げ壁に貼ることで季節を感じて頂けるように努めている。共用の空間は毎日掃除し、清潔にしている。		テラスには四季折々の花が咲き自由に出入りできる状態であり、ホールには季節に応じた貼り絵や習字を掲示している。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファを利用し、模様替えを行いくつるげ空間を工夫している。		居室からテラスに出て長いすで日光浴をしたり、テラスの花の世話を楽しんでいただいている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や大切にしていた物を利用の際に持ち込んでいただける様に、家族様に協力をお願いし、居心地のよい居室創りに努めている。		テレビを置いたり、家族の写真を飾ったりして家庭的な雰囲気の中で生活して頂いている。
84 換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、換気を促す放送があり決まった時間に行っている。その他、随時行っている。		利用者様と一緒に居室の換気やカーテンの開閉を行いさわやかな室内を保てる様配慮している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴槽等に手すりを設置して、流し台のシンクも浅くする等、身体機能を活かし安全で安心した生活が送れるように工夫している。		手すりの利用や杖の使用等一人ひとりの身体機能に合わせ、自立した生活ができる様に配慮している。
86 わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	生活全般において、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		トイレに分かりやすい表示や目立つ表示をつけたり、居室には目線に近いところに表札をはりわかりやすくしている。その都度目印を説明し理解出来るように支援している。
87 建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダを自由に出入りし、花の水やりや、外気を感じながらのゲーム等職員と楽しんでいただいている。		家族様やボランティアの方々等、多人数の交流の場として活用している。

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の不安や悲しみ、願望を量り知することは難しいが、日々支援する中で一人ひとりの思いを職員が共有し、笑顔で過ごしていただけるように、職員全員が共通認識のもと家族のような思いで自立支援している。

看護師も日勤であり、夜間急変時にも対応し、身体的変化を見逃さず異常を早期発見し、医師と連携して利用者の健康管理に努めている。

利用者・家族の希望により、終末期の利用者に医師・看護師・介護職員が連携して穏やかな日々を過ごしていただけたことは、当グループホームの支援力と自負している。